

知的障害のある人の新たな課題、障害当事者・家族からの提案

藤沢市手をつなぐ育成会 依田 雍子

新しい生活様式に対する反応

- ・マスクがニガ手な子を外出させないという例もありますが、外出時に「マスクをつけられません」というバッジをつける、予備を複数枚用意する、ネガティブなことより楽しいことに関連付けて誘導する、などの工夫例もみられます
- ・脇の下に挟む体温計がニガ手な人も多いため、肌に接触しない新しいタイプの検温器は、数秒という速さもあって受け入れは良好です
- ・ソーシャルディスタンスの意味が判らない人でも足型マークには従いやすく、「見える化」された効果は絶大です

接客・介助への配慮

自閉症の人はもともと身体接触が苦手ですが、一般的に自力で移動できている人に身体介助は不要です。問題は感染防止策を守らない人への接し方でしょう。

マスクをしないで歩いていたらいきなり頬をひっぱたかれた人もいますが、注意や制止する際は短い言葉やジェスチャーで判りやすく伝え、めげずに聞き入れない人には、めげずにキッパリ伝え続けるのも一手かと思います。

いま一番の困りごと

多くの知的障害児者は、コロナ禍という状況の意味や感染防止対策の必要性が充分理解できないことで混乱しています。

知的障害児者は日々決まった行動パターンで生活しているので、通学や通所の日程が突然変わったり余暇活動や例年のイベントが中止されても、その理由が理解できずに混乱し、そのうえ自粛生活で家族全体にもストレスが溜まるなかで、情緒不安定になる人が多くいます。

家に籠る生活にも限界があり、時には非難を覚悟のうえでマスクがニガ手な子を連れて外出するケースもみられますが、その際も多くの親が「うつさない、うつされない」対策をできる限り心がけています。